

(学校番号231)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【馬宮中学校】

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>学習習慣の確立がされておらず、基礎的・基本的な知識・技能が定着していない。 <指導上の課題>生徒が自らの学習を振り返る時間や学習計画を立てる時間の設定が確保できていない。	⇒ 「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【毎授業開始時の実施】。 授業中に生徒が自らの学習を振り返る時間や学習計画を立てる時間を設定する【毎時間設定】。
思考・判断・表現	<学習上の課題>自分の考えを言葉で表す活動に課題が見られ、「思考・判断・表現」の記述式問題の無回答率が高い。 <指導上の課題>根拠を明確にして自分の考えを説明する活動や他者と教え合ったり高め合ったりするような授業が少ない。	⇒ 生徒が作品・レポート等に取り組む際に、手立てや評価の観点を明確に生徒に提示した上で、観点に沿った評価をする【毎回実施】。 意欲的に授業に取り組む態度を育て、協働的な学びをとおして考えたり表現したりすることができるようにする【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答が80%以上】。

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「情報の扱い方に関する事項」において、特に「意見と根拠の関係」や「具体と抽象の関係」を捉える問題に課題が見られた。意見と根拠、具体と抽象の関係性の理解が不十分であることが考えられる。 学習状況では、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」における肯定的な回答の割合は83%であったため、今後も主体的な学びを意識した授業を継続していく。
思考・判断・表現	数学の「図形」の領域において課題が見られた。筋道を立てて考える証明や、角の大きさに着目して考える問題が正答率が低く、すでに提示された事象から新たな性質を見出すまでの過程を考える力が不十分であると考えられる。 学習状況では、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」における肯定的な回答の割合は90%であったため、今後も協働的な学びの場面を活用し、生徒の考える力を高めていく。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことができた。 生徒が自らの学習を振り返ったり学習計画を立てたりする時間の確保ができていなかった。生徒一人ひとりの実態把握に努め、支援しながら、生徒が自らの学びをメタ認知できるようにしていく。	「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【毎授業開始時の実施】。 授業中に生徒が自らの学習を振り返る時間や学習計画を立てる時間を設定する【毎単元設定】。
思考・判断・表現	B	生徒が課題に取り組む際、手立てや評価の観点を明確に生徒に提示することができた。 意欲的に授業に取り組めるよう、授業の工夫をし、協働的な学びの場面を多く設定することができた。	変更なし

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

※評価
 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)